

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 10月 22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470203195		
法人名	創建工業株式会社		
事業所名	グループホーム光南あおぞら		
所在地	広島市中区光南二丁目3番46号 (電話) 082-249-6602		
自己評価作成日	平成26年10月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3470203195-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南四丁目-46-9
訪問調査日	平成26年10月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用期間が長い方が多いこと。 入居前に対応が困難といわれていた方が、普通に生活を営んでおられること
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム光南あおぞらは、広島バス吉島線吉島病院入口バス停から徒歩3分のとても交通の便の良い所がありますが、周囲は公務員宿舎、マンション等で静かな環境に恵まれています。金融機関、病院、スーパーやコンビニも近くにあり生活しやすく買い物も便利です。4階建ての建物の3～4階がグループホームになっています。他の用途に使用されていた細長い建物なので、リビングと食堂が居室を挟んで長い廊下の両端にあります。このことは一見とても不利な構造に見えますが、欠点を逆手に取り、利用者が毎日食堂とリビングを往復することがとても良いリハビリになり、殆どの方が自力で移動されています。ADLだけでなく幸福度を高めるために、職員は「あたりまえ、穏やか、存分に、磊落ーあおぞら」・・・を理念にゆったり過ごして貰えるよう努めています。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員ミーティングで定期的に確認している	あたりまえ、おだやか、ぞんぶん、らいらくの最初の一文字を取り、「あおぞら」を理念とし、管理者・職員が利用者に寄り添った介護をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会で取り組まれている、近隣清掃に定期的に参加している。その他盆踊りやとんど等の行事にも参加している。	年2回地域の清掃活動に参加、施設周辺を清掃し、ごみを収集場へ運んでいる。利用者有志が、盆踊り、とんど祭り等地域の行事に参加している。特に盆踊りは練習から参加し、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	日曜日の午前中に、珈琲を準備するボランティアを募り、その活動を通じ、グループホームで生活される方々とその対応について理解が深まるよう活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	はいかい高齢者SOSネットワークの(登録するだけでなく)参加や、地域で行われる行事案内を受けるなど話し合いを基に行っている。	例年、民生委員、地域包括、家族、利用者、管理者2名、区健康長寿課から年1回参加で開催しているが、今年はいくつかのことが重なり運営推進会議が開催できなかった	次年度は定期的で開催されるよう期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	困難ケースや緊急度の高い相談ケースなど、情報の共有に勤めている。	医療上問題のある方や後見人の指定が必要になった方、困難ケースや緊急度の高い相談ケースなど、情報の共有に勤めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月のミーティングの4半期に1回は、虐待について研修を行っている。	過去には必要に迫られ、一時的に拘束した場合もあるが、現在は職員もよく研修し、日中は玄関も施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員ミーティングで定期的に確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に後見をうけておられる方もおり、後見人の方と相談しつつ対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	担当ケアマネジャーや担当ケースワーカーに立会を依頼することも。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご入居された後にケアマネジャーの方とご本人さんの面談機会を持ち、ご本人の不安・不満に思われている点等オブザーバー的に係わりをお願いしている。運営推進会議の内容をご家族に説明し、ご要望など取り上げられることも伝えている	入居前にご本人や家族の要望を聴くと共に、入居後もご本人・ご家族の不安・心配などその都度聞くようにしている。また、ご家族が訪問された際は出来るだけ本音が話しやすいよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各階ごと、月に一度のミーティング時に行っている。	各階ごとに月1回全体ミーティングを行い職員の意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務シフトの一時的見直しなど柔軟に対応している。介護度の高い方への対応や、ADLの維持改善、不穏状態の緩和時など、上がった成果を皆で共有できるようミーティング内での発言に留意している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月のミーティング時に現状の課題と、解決に向けて得たい知識を準備し、次回ミーティング時に資料配布、説明などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣の事業所と職員交換研修や、研修会の実施について協議している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、複数回の見学の機会と、食事会を実施したうえで入居していただいている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	帰宅願望をご家族に訴えられた場合の対応など、面会が重荷にならないよう相談の対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者の状況によっては、それまで認知症について専門医に受診したことがない方もおられるので、必要に応じ受診の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用される方のレベルに応じた日課に、職員と共に炊事、掃除、洗濯に参加してもらうことで、関係がつけよう取り組んでいる。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ケア方針の変化や主治医から疾病について変化があった際は、後日どのような感想をお持ちか尋ねようしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前の利用施設訪問やケアマネと連絡を取り合っ対応している。(在宅時の担当ケアマネの面会もある)	在宅時に訪問していたケアマネの様子を見に来て貰っている。時には、入居時に困難事例と思われていた方が落ち着いた様子見てケアマネが驚かれることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しがちな方もおられ、関わりが持てるよう、時間と場所づくりに配慮しつつ業務にあたっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院先医療機関を定期的に訪問し、普段の様子を病院スタッフに伝えたり、強い希望がある場合は、入居者のお見舞いの付き添い、送迎も実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	朝が弱い方の起床時間など柔軟に対応してきている。	お一人おひとりの生活時間を大切に、その人なりに規則的な生活をして貰っている。入居後常に寄り添いほつぽつ話されることなどから、意向の把握に勤めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居されたのち、面会の時などに話される内容を参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活記録を個々に記載している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングは月複数回実施している。	毎月1回スタッフミーティングで検討する。1号室は1日、11日、21日、2号室は2日、12日、22日と毎月3回以上、モニタリングを行い課題とケアの在り方を検討している。特に転倒の多い方については、10日、20日、30日にも計画のチェックをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録(日々のご様子)→日報(対応と結果)→業務日誌(業務を見直す場合の伝達)で対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入院中の側面的援助(洗濯物用意や買い物代行、時には他入居の見舞い付き添いなど)や重介助者やインフルエンザ隔離時の勤務シフト見直しなど、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の小売店、スーパー、飲食店、理髪店、ペットショップ、児童館、公民館、図書館などを利用者さんと共に利用し、活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前かかりつけ医には、必要に応じ引き続き受診するなどの対応を行っている。	内科月1回、歯科毎週、皮膚科月1回の訪問診療があるが、入居前のかかりつけ医を希望される方は必要に応じ対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	(医療連携加算なしのため)受診時の相談、往診に来ていただく前に事前に連絡するなど対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の連絡先は施設を窓口にして、洗濯や必需品を届けたりしながら、面会時に病状なども確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	疾病が悪化した場合の主治医説明は、ご家族とともに聞くようにし、今後のことはその際方針を立てるようにしている。	看取りはしていないが疾病が悪化した場合は、主治医の説明はご家族と共に聴き適切な対応が出来るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急法の研修を施設で実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている。	運営推進会議にてご案内いただいた、地区防災フェア参加予定	年2回消防署立会の上避難訓練をしている。近日常実施される地域の防災フェアに参加する予定である。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	身辺の質問は他の方に聞こえないよう配慮して行っている。	言葉遣いに気を付け、トイレ介助等目立たないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人におやつを選んでもらえる機会を定期的に持っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事、おやつ時間など定まった時間が望ましいと考えられる場合も、促しに留めて思い思いの時間に提供しているケースが以前よりある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	色柄など好みに合わせて準備している。お店で手に取れるよう外出支援を必要に応じ行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	色柄など好みに合わせて準備している。お店で手に取れるよう外出支援を必要に応じ行っている。	毎日買い物をし、季節に合った献立を実施している。夕涼み会食や喫茶ボランティアによるお茶会など、変化を取り入れている。下膳をされる方もある。車いすの方も食事、リビングでは椅子に移乗して貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	色柄など好みに合わせて準備している。お店で手に取れるよう外出支援を必要に応じ行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを実施。 訪問歯科を導入		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の利用者さんにあわせた対応をしている	一人ひとりの排泄パターンに合わせた対応をし、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品や野菜の摂取をこころがけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	湯音や時間(長風呂好き)にあわせて対応している。	入浴は週2回。お湯の温度や入浴時間は好みに合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	部屋に独り居るのを好まない方も、体調に応じ休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	名前を復唱して、手渡しするよう心がけている。		

グループホーム光南あおぞら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々のお部屋で楽しんでいただけるような適量のおやつを準備するなど対応している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望される方のため近隣のラーメン店に同行したり、誕生日に個別の行き先へ外出するなど対応している。	散髪やコンビニなどへ出かける方へ同行したり、誕生日には希望の行き先へ外出するなど対応している。花火大会、フラワーフェスティバルにはボランティアの協力も得て出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	おこずかい帳を開示し、コピーをご要望に応じてお渡しすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	見舞いの便りなどに返信、お礼の電話をするよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	行事写真など掲示して対応している。	居間と食堂は建物の両サイドにあり、朝・昼・晩3度の食事と2度のお茶の時間に廊下を移動することになり、散歩と同じ効果がある。廊下にあるバーにつかまって立ち上がり運動をして、立ち上がった回数表もあり励みになっている。よく歩かれるので車いすの方が少ない。食堂も丁度良い広さで落ち着いて食事ができる。居間ではテーブルを囲んで椅子が配置され、トランプや風船バレーなどのレクリエーションをすることもある。廊下には行事の写真などが掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各階ロビー、食堂のもならず、一階玄関脇のソファや、施など、フロア以外の場所も含めて検討、実施している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご希望により畳を入れたりする工夫もしている。	若い頃の思い出の写真や仏具など飾っている方もある。体調により部屋の動線を考慮してベッドを窓際に置いたり壁際に置くなど使い易く配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	興味を持って取り組んでいただける事を、日々さまざまな内容のメニューを提供することで把握できている。		

グループホーム光南あおぞら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム光南あおぞら

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光南あおぞら

作成日 平成 26年 10月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	個別の記録が不十分である。	記入しやすい様式を作り、ケアプラン作成・介護に活かす。	記入しやすい様式を作りその都度記入する。	6ヶ月
2	2	地域との付き合いが少ない。	施設の防災訓練に地域の方が参加して下さるようになる。	地域行事への参加を増やし交流を深める。	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。